

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

謙虚になることで晩節を全うする 伊與田 覺 (論語普及会学監)

1. 「易経」には、立派な君子になるための正しい行為が述べられています。その道筋は龍が天に昇る例に例えられ、初九、九二、九三、九四、九五、上九6 段階に分けて記されています。その 5 段階と 6 段階、会社であれば社長となり、さらに社長を退いた後の心得について述べてみます。
2. 「九五。飛龍天に在り。大人を見るに利ろし」。社長ともなれば「飛龍天に在り」で、龍が天空を自在に駆け巡るほどの実力も身につけています。しかし、お山の大将でいい気になってはなりません。社長になると社外での交流も盛んになりますが、「大人を見るに利ろし」で、外部の優れた人物から学ぶ心掛けが必要です。但し外だけではなく、内もしっかり見ておかなければなりません。大きな会社になると、自分の会社の課長や係長の名前を知らない社長も多いようですが、普段から将来大人となるべき若手によく目を配り、彼らの優れた意見に耳を傾けることも大切です。
3. 社長はやがて会長や相談役に退きます。「上九。亢龍悔あり」。会社での地位は一番高くとも、すでに実権は社長に譲っています。そこで、「亢龍悔あり」、亢は高ぶるという意味で、いつまでも社長風を吹かしていると組織も混乱し、悔いを残す結果を招きます。自分の立場をよくわきまえ、謙虚になることで晩節を全うしなければなりません。

(参考:「致知」2013 年 8 月号)

経営者のための危機管理

「体育会体質」が招く危機

松永真理 (バンダイ取締役)

1. 柔軟性を失った「体育会体質」に陥っていないか。例えば、不正やパワハラがあっても、見て見ぬふりをする風土。「上に逆らってはいけない」という企業文化があると、問題を察知しても目をつぶってしまう。同質化を求める風土も、放置すると組織を蝕む。「革新」を生み出す異能・異質な人材を排除してしまうからだ。幹部に女性がほとんどいない、といったバランスを欠いた組織は、「顧客第一」と言いながらも、社内ばかり気にするような内向き志向につながりかねない。
2. 本来ならば、トップにとって耳が痛い情報をいち早く伝える的確な経営判断を仰がないといけないのに、ネガティブな情報を握りつぶし、トップが喜ぶような情報しか伝えなくなる。これまで日本企業が、女性の能力を十分に生かせなかった原因は、旧態依然として体育会体質にあったように思う。

(参考:「日経ビジネス」:2013 年 5 月 27 日号)

新規成長分野

拡大する「家庭給食」市場

1. 給食産業はまだまだ伸びる。「事業所給食」の拡大や「家庭給食」への展開、海外への「病院給食サービスシステムの輸出」が決め手だ。給食市場規模は現在 4 兆 4000 億円程度であるとされ。内訳は、事業所対面給食 1 兆 2900 億円、病院給食 1 兆 2350 億円、老人福祉施設給食 7400 億円、弁当給食 5750 億円、学校給食 4450 億円、幼稚園・保育園給食 1570 億円である。
2. 今後は、学校給食市場は出生率の低下によって縮小するが、他方で医療介護・福祉への財政負担増加の抑制を考えれば「家庭給食」が増加すると見ることができる。これは外食産業である給食ビジネスの、内食(家庭内で作って家庭内で食べること) 産業への進出を意味するといえよう。

(参考:「週刊東洋経済」2013 年 6 月 1 日号)

古典に学ぶ

大道^{すた}廃れて仁義あり

(解説) 仁義仁義と人が騒ぎているのは、無為自然の大道が無視れ、作為が世を支配するようになってからだ。大きな虚偽生まれたのは、知の限界が忘れられ、人間のさかしらがのさばりだしてからだ。孝や慈という徳目が説かれたのは、自然の情愛が失われてからだ。忠臣なるものが現われたのは、無為の政治がうち捨てられて、国家が乱れはじめてからだ。

(参考: 奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」: 徳間書店)